

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 ホストタウン交流推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 地域スポーツ課 スポーツ交流係 電話番号：058-272-1111(内2619)

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 11,506 千円 (前年度予算額： 20,591 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	20,591	0	0	0	0	0	0	0	20,591
要求額	11,506	0	0	0	0	0	0	0	11,506
決定額	11,506	0	0	0	0	0	0	0	11,506

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・東京2020オリンピック・パラリンピック開催を契機として、ホストタウン交流を推進し、令和3年度は、カナダ(陸上・パラ陸上)、オランダ(ホッケー)の事前合宿が本県で実施され、練習公開やオンライン交流などオリンピック、パラリンピアンとの交流が行われた。
- ・これらの交流の成果を東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、ホストタウン相手国・メダリストなど海外トップ選手との関係を活かし、海外選手の合宿誘致や海外選手との交流、パラスポーツを通じた共生社会の推進を継続して実施している。
- ・その結果、2025年に東京で開催された世界陸上において、カナダ陸上選手団の事前合宿が実施され、選手等と児童・生徒との交流が行われた。
- ・さらに、2026年には第20回アジア・アジアパラ競技大会が愛知で開催されることから、スポーツを通じた国際理解の推進や共生社会の実現を図る。
- ・加えて、パリパラリンピックやアジアパラ大会の開催により高まっているパラスポーツへの関心を継続していくため、学校と連携し、パラスポーツやパラアスリートとの継続的なつながりを作り出していく。

(2) 事業内容

- ・カナダ陸上競技連盟との交流
- ・パラアスリートとの交流を通じた心のバリアフリー推進事業

（３）県負担・補助率の考え方

「清流の国ぎふ」創生総合戦略及び「第２期清流の国スポーツ推進計画」に基づき、合宿誘致による地域ブランドの確立と交流人口の拡大による地域資源を活かしたスポーツによるまちづくりと地域活性化を図るため、県での費用負担は妥当。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	485	職員旅費
委託料	11,021	選手招へい、パラ選手との交流等
合計	11,506	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

- ・第２期清流の国ぎふスポーツ推進計画
（Ⅳ地域資源を活かしたスポーツによるまちづくり）

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

ホストタウン交流による東京オリ・パラのレガシー化、合宿誘致による地域ブランドの確立及びスポーツによるまちづくりの活性化を推進するため、2024年の神戸世界パラ陸上競技選手権大会、2025年の東京世界陸上選手権大会及び2026年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会まで海外トップ選手の合宿を誘致し、海外トップアスリートと地域との交流を継続させる。特に、パラアスリートとの交流を通じた心のバリアフリーの推進を図り、スポーツを通じた共生社会に向けた取組を進める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①海外チーム・選手との交流件数（累計）	10回	24回	24回	25回	25回	96%
②連携学校における交流件数（累計）	0回	78回	96回	100回	100回	78%

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	2024年の神戸世界パラ陸上、2025年の東京世界陸上におけるカナダ陸上チームの事前合宿の実現に向けて、関係者とのオンライン会議やチームに向けた応援動画作成などの誘致活動を継続的に行った。 また、連携校の子どもたちに対し、国際理解・共生社会の促進を図るため、カナダのメダリストとのオンライン交流やパラアスリートとの交流、パラスポーツの体験を実施した。
	指標① 目標： 13回 実績： 16回 達成率： 123% 指標② 目標： 24回 実績： 24回 達成率： 100%
令和5年度	2025年の東京世界陸上におけるカナダ陸上チームの事前合宿の実現に向けて、関係者とのオンライン会議やチームに向けた応援動画作成などの誘致活動を継続的に行った結果、カナダ陸上チームの世界陸上事前合宿の受入れを行った。 また、連携校の子どもたちに対し、国際理解・共生社会の促進を図るため、カナダのメダリストとのオンライン交流やパラアスリートとの交流、パラスポーツの体験を実施した。
	指標① 目標： 18回 実績： 20回 達成率： 111% 指標② 目標： 48回 実績： 48回 達成率： 100%
令和6年度	ぎふ清流ハーフマラソン及び神戸世界パラ陸上事前合宿に合わせて、カナダ選手を岐阜に招へいし、児童・生徒との交流を行った。3月には、カナダ陸上チームと2025年に東京で開催される世界陸上に合わせた事前合宿を岐阜県で実施することに合意した。また、学校と連携し、オリパラレガシーとして、スポーツを通じた国際理解・共生社会の推進を進めた。
	指標① 目標： 累計 21回 実績： 24回 達成率： 114% 指標② 目標： 累計 74回 実績： 78回 達成率： 105%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとしてホストタウン交流で築いた関係が、継続、発展している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	ホストタウン相手国との交流及びパラリンピアンとの交流により、連携校の子どもたちに対し、積極的に国際理解・共生社会の促進を図ることができている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	ホストタウン相手国との交流及びパラリンピアンとの交流を体験することにより、連携校の子どもたちに対し、より深い学びを提供することができている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 2027年の世界陸上が中国で開催されるため、それに向けてカナダ陸上競技連盟との関係維持が課題であり、これまで実施するぎふ清流ハーフマラソンへの招へいなどを通じて関係を維持し、2027年に向けた合宿誘致活動を進めていく必要がある。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 「清流の国ぎふ」創生総合戦略及び第2期清流の国ぎふスポーツ推進計画に基づいた取組みであり、交流人口の拡大がみられたため、今後も事業を継続する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	